天満宮

題字／後西天皇御宸筆

季刊
春 号
平成26年4月
Vol.2

特集

「天神信仰と天神の祭り」
京都大学名誉教授 上田 正昭

重要文化財新指定
「北野西京神人文書」について
京都大学名誉教授 藤井 譲治

「国宝 北野天神縁起絵巻」を読む
同志社大学 文学部教授 竹居 明男

「天神信仰の諸相」
北野天満宮 権宮司 加藤 迪夫

北野天満宮社報 春号 Vol.2
KITANO TENMANGU NEWS

平安京イメージ図

北野天満宮の由来

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国の天神社・天満宮約一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の乾の地、北野の地に御鎮座いたしました。

天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔が社殿を造営、北野祭は官祭に預り、朝廷・皇室の崇敬を受け二十二社に加列、また臣下として初めて官幣中社に列格され国家鎮護、皇城鎮護の神として崇められました。

寛弘元年（一〇〇四）、一條天皇がはじめて行幸されて以来、歴代の天皇の行幸も二十数度に亘り、将軍家や有力大名の崇敬を受けております。

文道大祖、風月本主と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されています。

天神信仰は、千有余年の長い歴史の中で、人々の心の支えとなる神として篤い崇敬をうけ、各時代の社会構造と相まって継承され、「天神さま」と庶民・一般に至るまで親しまれてきました。菅公が生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生きています。

現在の社殿は慶長一二年（一六〇七）豊臣秀吉公の遺命を受けた豊臣秀頼公の造営で、八棟造という豪壮な建築様式を誇り国宝に指定されています。

〈表紙写真説明〉

平安京は、桓武天皇が「万代の宮」と定めた都。遷都以来 1,300 年余、京都は首都として栄えてきた。「平安楽土」四神相応の地、平安京。怨霊・魑魅魍魎の跋扈する都でもあり、丑寅・東北・鬼門に比叡山延暦寺、また四方に神社仏閣が配置され防御・繁栄が願われた。乾・北西に位置する北野の地、天神地祇を祀る所。平安京の内裏の北に位置し、そこに北野天満宮が創建され菅原道真公の神霊を鎮める。天神信仰発祥の神社として、やがて北野の天神さまは全国に広まって行った。平安京の四方の山々には、五山の送り火が輝く。

社務所前に咲く珍しい山桜

ご挨拶　季刊「天満宮」春号 発刊にあたり

昭和四十八年五月十五日、社報「天満宮」の第一号、創刊号が北野天満宮の「御神徳宣揚の一助に」として発刊されました。以来四十一年の間、毎月月刊で刊行され、本年三月号で第四八八号を迎えることとなります。

これも偏に、歴代各宮司を始め、職員一同のご尽力の賜物であり、また関係各位のご協力によることと、心より御礼申し上げる次第であります。

さて、昨年十一月に一條天皇行幸始祭の再興を記念し、社報「天満宮」臨時会報を第一号として発刊致しましたが、この度、天神信仰の更なる発展・神徳宣揚の為、また天神信仰発祥の地、全国天満宮の宗祀（総本社）としてふさわしい北野天満宮の情報発信、教化育成の資として、社報「天満宮」を一新、月刊より内容の充実した季刊号を第二号として発刊することといたしました。

紙面も一新した「天満宮」は、京都の文化、北野天満宮の祭典、年間行事、日常の紹介等とともに、天神信仰の学術的な研究等も取り上げていきたいと計画いたしております。

今後とも、皆様のご指導、ご協力、ご助言を賜り、天神信仰の御神徳宣揚一助になりますよう努力いたす所存でありますので、宜しくお願い申し上げます。

北野天満宮
宮司　橘　重十九

彬子女王殿下　三度の御来駕

梅花祭にと神前に「御花神饌」奉献
皇室ゆかりの宝物類も御覧になる

「御花神饌」を奉献される彬子女王殿下（本殿にて）

梅花祭に先駆けて二月七日、寛仁親王殿下第一女子彬子女王殿下が御来駕され、二十五日の祭典当日御神前に供える和紙で創った梅花の特殊神饌「御花神饌」を奉献された。また、当宮が所蔵する皇室ゆかりの宝物類を御覧になられた。

彬子女王殿下が御成りになられるのは、一昨年十二月、昨年四月についで三度目となる。いずれも「次世代を担う子どもたちに日本文化の奥深さや魅力を伝えていきたい」との趣旨のもと女王殿下が設立され、主宰されている「心游舎（しんゆうしゃ）」活動の一環によるものである。

今回の御来駕は、菅公の祥月命日に当たる梅花祭の神前に美しい「御花神饌」を奉饌し、御神霊をお慰めしようとの願いを込められたものであった。

本殿において「御花神饌」を奉献後、一拝された彬子女王殿下は、社務所大広間に展示された当宮所蔵の数多くの皇室ゆかりの宝物などを御覧になられた。

女王殿下は、後深草天皇や後奈良天皇宸翰の御神号を始め鎌倉時代から江戸時代にかけての天皇の奉納品などを時間をかけてじっくり御覧になられた。また、皇室ゆかりの品とは別に近代初頭の日本美術研究家として知られるアーネスト・フェノロサが、当宮にある「承久本北野天神縁起」（国宝）を鑑賞した際の直筆の評を大変興味深そうに御覧になられていた。

皇室ゆかりの宝物を御覧になる彬子女王殿下（社務所にて）

彬子女王殿下は、平成二十四年、当宮に初めて御成りになられた際は、社務所大広間において約六十人の子供たちの参加のもと「深谷式辞書引き学習」のワークショップを開催された。また、翌二十五年四月四日の御来駕の際は、今回と同じく和紙で創った梅花の「御花神饌」を奉献されている。これは京都の子どもたちが紅花染めの和紙を使って創った特殊神饌であった。

子供たちと記念撮影（平成24年12月、社務所にて）

京都府／京都大学こころの未来研究センター共同企画シンポジウム

ワザとこころパートⅢ ― 天神信仰と天神の祭り

「天神信仰と天神の祭り」第一回

京都大学名誉教授　上田 正昭

「祭礼図絵巻」より 渡御の段

日ごろ考えております天神信仰、あるいは天神の祭りについて、お話をさせていただきたいと思います。

天神には三種類がある

一口に天神と申しますけれども、実は天神には三種類あるということを、まず最初に述べたいと思います。

中国や朝鮮半島にも天神の信仰はあります。その天神は天の神。天上の神。一番最高の神は昊天上帝（こうてんじょうこう）。ちょっと難しい字を書きますが。

例えば六国史の二番目の書物、『続日本紀』と申します。その『続日本紀』の延暦四年、長岡に都が移ったのが延暦三年、七八四年ですが、その翌年の七八五年に、交野柏原で天神を桓武天皇が祭られたという記録が残っています。これは十一月の冬至の日に行われた祭りです。都の南の郊外。中国で言えば、北京の天壇公園の天壇に倣っているということです。

その天神は、延暦六年にも桓武天皇が郊祀を行っております。日本の天皇で、郊祀を行った確実な最初の天皇は桓武天皇です。その延暦六年、『続日本紀』の記述に郊祀の内容が詳しく書かれています。大納言の藤原継縄が祭文を上奏しておりますが、その天神は中国の皇帝が祭祀した天神と同じです。

あるいは朝鮮半島で、文献に天神と出てくる資料もございますが、これは日月星辰。太陽だったり、月の神であったり、星の神であったり、天上の神を天神と呼びます。

天神社という社は全て、ここでお話になる菅原道真公を祭っていると思ったら、それは間違いです。京都市の北白川天神社という天神社がございます。これは少彦名命を祭神として祭っていますし、そして雷さん、雷雨神としての信仰の天神であります。

この雷雨神としての天神信仰は、道真公の天満天神の問題を考えるときにも関係がありますので、記憶の隅に残しておいていただきたいと思います。

二番目は天ッ神・国ッ神の天神です。高天原系統の神々を天神、天ッ神と申します。葦原中国の神々を国ッ神と申します。

そして第三が今日の主題である、天満天神。菅原道真公を神さまとしてお祭りする、天満天神の信仰でございます。

現在、全国に天満天神を祭るお社は約一万二千社あります。非常に多い。その総本社は北野天満宮、次いで大阪天満宮、太宰府天満宮。天満宮の問題を論じるときに、この三つのお社を抜かすわけにはいかない。

上田正昭先生　略歴

昭和二年四月二十九日生まれ、京都府出身。京都大学文学部史学科卒業。歴史学者、京都大学文学博士。京都大学名誉教授、島根県立古代出雲歴史博物館名誉館長、京都府亀岡市鎮座 延喜式内社小幡神社宮司（神職身分特級）。平成十三年一月宮中歌会召人に選任、平成十五年四月勲二等瑞宝章を受章。

著書：『古代伝承史の研究』（塙書房）『上田正昭著作集全八巻』（角川書店）『私の日本古代史上・下』（新潮選書）等単著七四冊、監修・編共著『日本文化の創造』湯川秀樹共著（雄渾社）『古事記の新研究』編（学生社）ほか五八七冊。

菅原道真公

菅原道真公の元は土師氏だったのです。菅原氏は土師古人という人が天応元年、西暦七八一年。この年に桓武天皇は奈良の都で即位されていますが、土師古人が菅原に名を改める。ですから菅原道真公のご先祖のふるさとは、現在で申しますと大阪府の藤井寺市の土師ノ里という場所が道真公の先祖のふるさとです。古い国名で申しますと、河内国志紀郡土師ノ里という所です。

後で申しますように、道真公が大宰府に左遷されるときに、藤井寺の土師ノ里の道明寺に、別れを告げに行くことになります。ここにはおばさんが住んでいました。覚寿尼という尼さんになっておられる、おばと別れを告げられるのも、実はご先祖のふるさとが土師ノ里であったからであります。

大阪天満宮をはじめとして、大阪に天満宮が多いのは、一つの理由は菅原道真公のふるさとが大阪にあるということと無関係ではありません。

その菅原家は学問の家として栄えていきますが、道真公は本当に優れた秀才で、文章博士になり、讃岐守、いまで言えば香川県ですが、香川県の知事に当たる讃岐守などを歴任して、最後は右大臣になられる。

学者で右大臣になったのは、古代でも二人しかいません。一人は聖武天皇の時代、天平と申しますが、吉備真備という人が右大臣になっています。もう一人が菅原道真公です。

延喜元年、従二位の位を醍醐天皇から贈られています。延喜元年は西暦九〇一年です。

ところがですね、左大臣の藤原時平は道真を大変ねたみまして、醍醐天皇に讒言をします。醍醐天皇はその讒言を受け入れ、菅原道真公は大宰府の権帥とされます。権というのは仮という意味で、仮の長官として大宰府へ左遷されることになるわけです。

そして延喜三年、西暦九〇三年の二月二十五日に、五十九歳でお亡くなりになられます。京都の皆さんも大阪の皆さんも、二十五日が天神さんの日ということで、北野天満宮や大阪天満宮にお参りになりますが、これは実は菅原道真公が大宰府で無念の思いをもってお亡くなりになった日だからです。太宰府天満宮はそのゆかりで創建されます。だから二十五日に天神さんにお参りという習わしができることになりました。

ところが延喜九年、醍醐天皇のときですが、九〇九年に左大臣である藤原時平が、にわかに病になって、わずか三十九歳で亡くなります。それだけではなく、時平の妹は醍醐天皇との間に保明皇太子を生んでおりますが、その保明皇太子がにわかに亡くなった。そしてさらに平安京の清涼殿に雷が落ち、藤原清貫ら三人が死亡するという事件が相次いで起こりました。

『日本紀略』という、神代から後一條天皇までの歴史を書いた書物があります。その『日本紀略』を読みますと、このような記録が残っております。「菅帥霊魂宿忿所為也」。菅原道真公の怨霊のたたりで、このような事件が相次いで起こったんだと書いています。

先ほど御霊と言われたのは、怨霊のことなんです。御霊信仰は天神信仰を考える上で非常に重要です。

そして天慶の元年、この年は非常に大事です。西暦九三八年ですね。平安京の右京七条二坊に住んでいる多治比文子に菅原道真公の怨霊が乗り移って、御霊を祭れという託宣を受けます。

北野御霊会

そして天慶元年の八月五日には、北野御霊会が始まります。祇園祭は奈良時代から数えて平安時代に始まりましたが、御霊信仰は奈良時代にすでに成り立っていますけれども、平安時代になって非常に盛んになり

国宝「北野天神縁起絵巻」（承久本）巻五より　清涼殿に落雷

平安京イメージ図

その事件に桓武天皇の弟の早良親王、皇太子でありましたが、疑いを掛けられて淡路に流されます。無実を訴えていましたが、いまで言えばハンガーストライキをして、絶食をして、淡路に流される途中で亡くなりました。

早良親王。これは日本の御霊のなかで最も有名で、しかもまず最初に祭られた御霊です。祇園祭の御霊の祭りが、貞観十八年の祇園御霊会から始まることは前回のシンポジウムで討論されたに違いないと思います。

北野神社の場合は北野御霊会が、天慶五年、西暦九四二年の八月五日に行われて、天神信仰は御霊信仰から始まります。支配者の御霊信仰は、政治のなかで政争によって、非業の死を遂げた方を祭りますが、鎮魂、もう文字通り、「どうかもう、おたたりをしないでください」とミタマシズメの御霊信仰でした。

民衆の御霊信仰は違うんですね。それほどのたたりをするほどの威力の神であるならば、その力を民衆の幸せにお恵みくださいという、ミタマフリの御霊信仰です。

私は御霊信仰には二つの流れがあると思います。一つはミタマシズメの御霊信仰。一つはミタマフリの御霊信仰。民衆が菅原道真公を祭ったのは、そのご神徳によって己の気力を奮い立たせるという、ミタマフリの御霊信仰だったと解釈しています。

一條天皇という方がおいでになります。この方は、『源氏物語』のなかでも紫式部は少し触れていますが、一條天皇は紫式部の学識を高く評価されて、「『日本紀』をこそ読みたるべけれ」。『日本紀』とは六国史です。紫式部は六国史を非常にしっかり読み込んだんだろうと言われて、そこで宮廷の女官から、紫式部は「日本紀のおつぼね」というふうに呼ばれることになった。

しかし紫式部は『源氏物語』のなかで、「『日本紀』などは、ただかたそばぞかし」。『日本紀』などは自分の勉強した一部に過ぎないと。物語にこそ道々しく、道の詳しきことはあらめと。世の中の道理というものは、物語が伝えているんだというふうに反論するんです。その一條天皇が北野天満宮を非常に信仰されています。

それで右大臣で亡くなった道真公に、左大臣の位を賜与し、それだけではなく正一位太政大臣を贈られています。

そして永延元年。歴史学者は資料を読まないと、うそを言うわけにはいきませんからね。年号ははっきり覚えていなければいけません。西暦九八七年、一條天皇は菅原道真公に北野天満宮大神の神号を送って、北野祭りを朝廷が行う官祭にされました。（つづく）

シンポジウム会場の様子（京都大学稲盛財団記念館）

ました。

清和天皇の貞観十八年に、祇園御霊会が行われて、政争で非業の死を遂げた人たちをお祭りする祇園御霊会。京都による御霊会の始まりは、二条城の南側にある神泉苑という場所が現在でもありまして、神泉苑御霊会が一番最初で六人の御霊を祭っています。

これは貞観の五年に始まり、筆頭は早良親王という桓武天皇の弟で。長岡に都が移ったときに、長岡京をつくる長官に当たっていた藤原種継が暗殺されました。

平成二十六年三月十八日　重要文化財新指定

「北野西京神人文書」について

京都大学名誉教授　藤井　譲治

国の重要文化財に当宮所蔵の「北野西京神人文書」が新たに指定された。この文書は、室町時代を中心に江戸時代のものを含む総点数九十九点からなり、中世京都の商業史、産業史、都市史研究上欠かすことの出来ない基本史料である。

伝来の事情は、神仏分離・廃仏毀釈・小社合祀など明治初年の国の神社政策の展開のなかで、明治五年（一八七二）一月、西京の一ノ保社（安楽寺）に伝来してきた「宝物」のうちの一群として、当宮に他の「宝物」とともに引き継がれたものである。

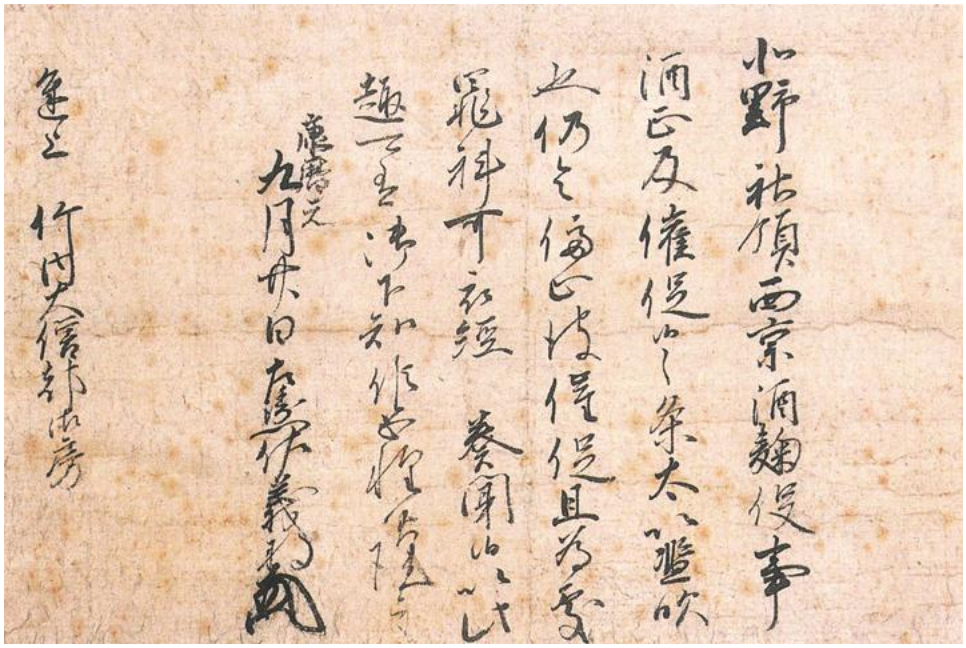
この文書を伝来してきた西京神人は、北野社創建に際し、京都右京の一条から二条の間に七ヵ所の御供所（七保）を設け、そこに居住し、室町時代には北野社に奉仕した神人集団で、京都の酒麹生産販売を独占する特権を所持していた。その名は、勘解由小路兼仲の日記『勘仲記』弘安十一年（一二八八）八月一日条にみえ、また本文書から貞治年間（一三六二～六八）までには酒麹の生産販売に関わっていたことが分かる。

本文書のなかで最も古いものは、康暦元年（一三七九）九月二十日に室町幕府の管領であった斯波義将から北野社の別当曼殊院道豪（竹内大僧正御坊）に宛てられたもの（写真１）である。本文をあげておこう。

北野社領西京酒麹役事
酒正（中原師郡）及催促候之条、太以濫吹也、仍令停止彼催促、且為処罪科可被経奏聞候、以此趣可有御下知候、恐惶謹言、
康暦元
九月廿日　左兵衛佐義将（斯波）（花押）
進上　竹内大僧正御房

内容は、朝廷の酒造正中原氏の西京への酒麹役催促を止めることを伝えたものである。

写真２としてあげたのは、嘉慶元年（一三八七）十二月三日の室町幕府三代将軍足利義満の書判のある下知状である。読みをあげておこう。



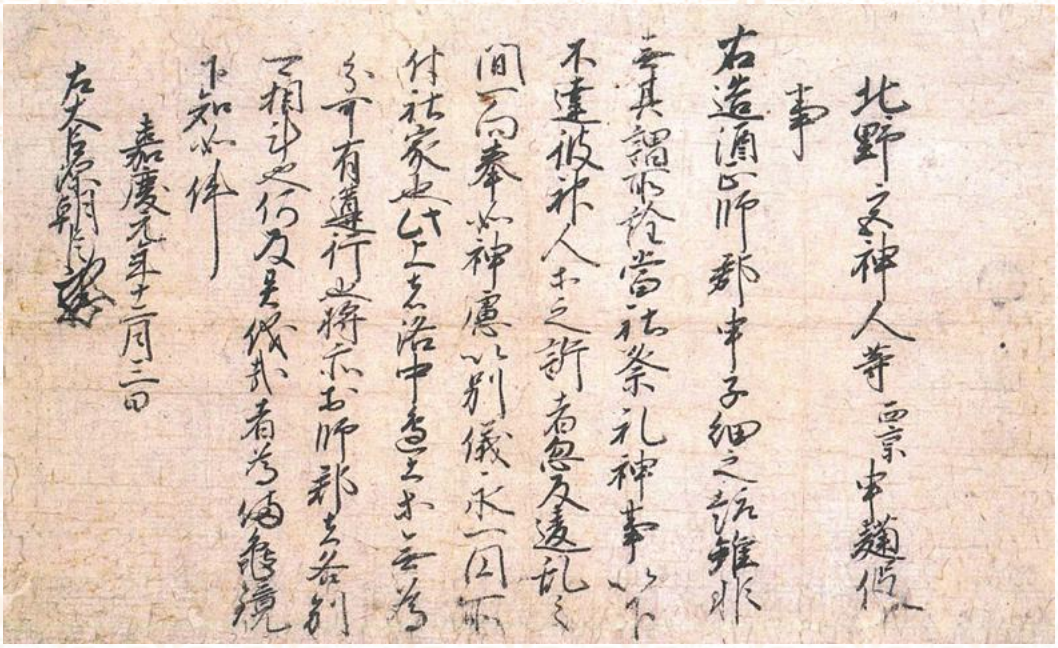
斯波義将書状　竹内大僧都宛（写真１）

藤井譲治先生　略歴

昭和二十二年九月二十九日生まれ、福井県出身。京都大学大学院文学研究科博士課程単位修得。文学博士。京都大学名誉教授。日本近世史を専攻。日本学術会議連携会員。

著書：『江戸幕府老中制形成過程の研究』（校倉書房）『幕藩領主の権力構造』（岩波書店）『徳川家光』（吉川弘文館）『徳川将軍家領知宛行制の研究』（思文閣出版）『天皇の歴史５ 天皇と天下人』（講談社）『天下人の時代』（吉川弘文館）『北野天満宮史料』（共編、北野天満宮）他。

北野宮神人等西京申麹役
事
右造酒正師郡(中原)申子細之趣雖非
無其謂、所詮当社祭礼神事以下
不達彼神人等之訴者、忽及違乱之
間、一向奉如神慮以別儀、永一円所
付社家也、此上者洛中辺土等無為
分可有遵行也、将亦於師郡者、各別
可相計也、何及異儀哉者、為備亀鏡
下知如件
嘉慶元年十二月三日
左大臣(足利義満)源朝臣（花押）



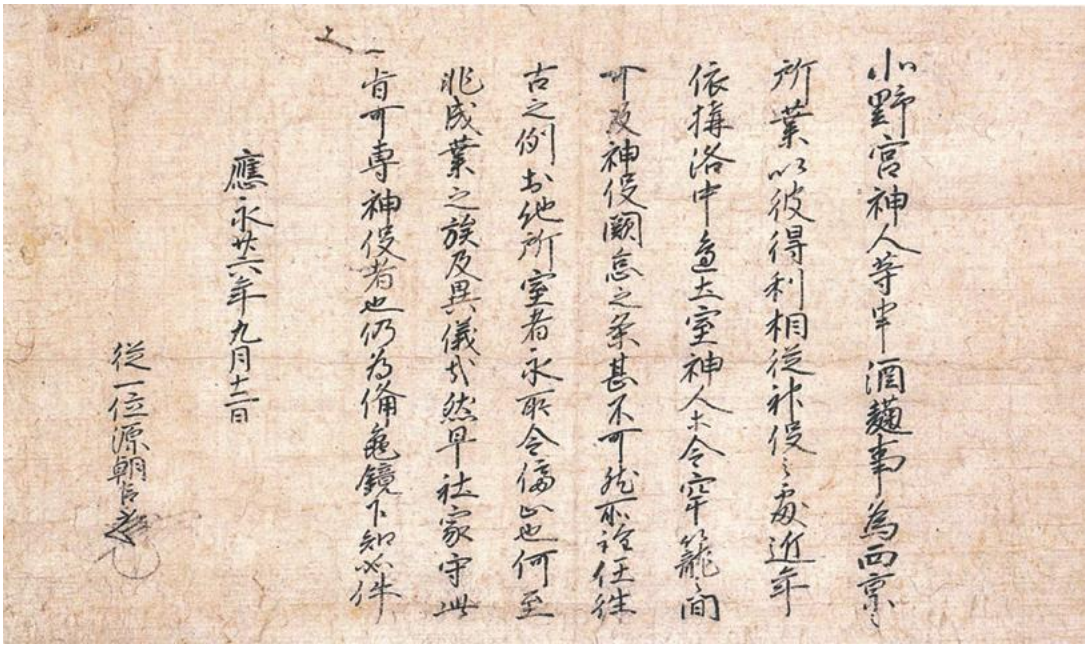
足利義満下知状（写真２）

内容は、西京神人の訴えを認め、北野天満宮の「祭礼神事以下」の費用にあてるために「洛中辺土等」の麹役徴収を認めて造酒正中原師郡の申し分を退け、酒麹役の免除を安堵している。

写真３は、応永二十六年（一四一九）九月十二日の将軍足利義持の下知状で、西京神人に「洛中辺土」の「麹室」の独占を認めたものである。これを請け、西京神人は洛中等の酒麹を生産する酒屋等の麹室を破却し、以後生産しないことを約束する請文を徴収している。本文書中にはその時に提出された請文五十二通が伝来している。

文安元年（一四四四）、酒麹製造の特権をめぐって西京神人とその他の酒屋土倉との争いが激化し、北野社に閉籠した西京神人が火を放ち、本社をはじめとする多くの建物を焼失させる事件が起こった。この事件以後、西京神人の特権は一時揺らいだようであるが、天文十四年（一五四五）に、幕府は洛中洛外の酒屋土倉に対し、西京神人による麹役の独占を通達する。この特権は、戦国時代末まで維持されたようだが、信長期以降は失われたようである。

それに替わるものとして、文禄元年（一五九二）十二月に豊臣秀吉期の所司代前田玄以から夫役・地子銭が免除され、また北野社領西院村で二十九石余を与えられた。こうした特権は、江戸幕府によっても幕末まで保証された。



足利義持下知状（写真３）

「国宝 北野天神縁起絵巻」を読む

第一回

同志社大学文学部教授 竹居 明男

国宝「北野天神縁起絵巻」（承久本）　附 梅樹蒔絵箱

北野天神縁起絵巻とは

北野天神縁起絵巻は、菅原道真公を祭神とする京都北野天満宮の縁起を描いた絵巻で、中世以降に多数制作された寺社縁起絵巻の代表的作品である。

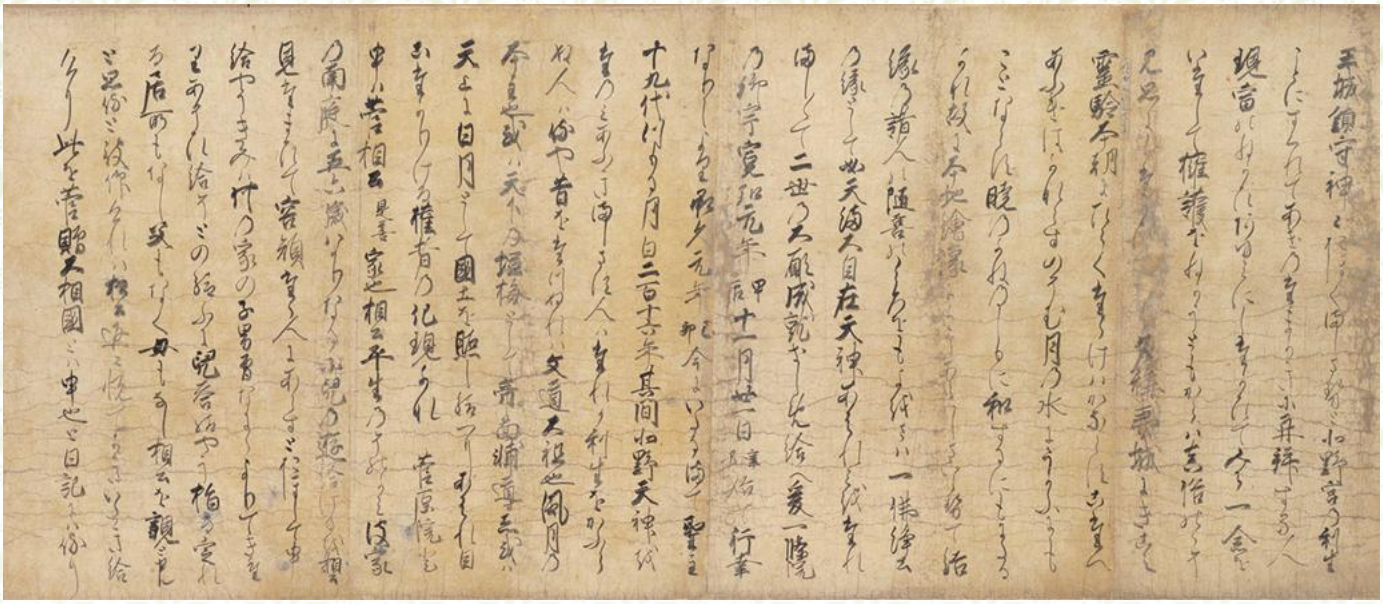
もともとは成立年代や性格を異にする多種多様の典拠をもとに、天神信仰にまつわる様々な史実や伝承を、①道真公の伝記→②逝去後の怨霊の活動→③北野天満宮の創建→④霊験利生（天神崇敬の御利益）を基本型とする一定のストーリーとして編集・記述したもので、遅くとも平安時代末期頃には成立したものと考えられる。

最古の縁起文として、奥書または本文に十二世紀末前後の年号を伴なう建久本・建保本が知られ、やがて天神信仰の隆盛とともに、縁起文（詞書）と絵を交互に配した絵巻が中世・近世を通じて多数制作された（中世の類本だけでも約三〇点が現存する）。数は少ないが、掛軸形式のものや、扇面に多数の場面を描きわけて屏風に貼りこんだ異色の作品も伝存している。

竹居明男先生　略歴

昭和二十五年六月十五日生まれ、京都府出身。同志社大学大学院文学研究科文化史学専攻博士後期課程中退。同志社大学文学部教授。日本文化史、特に古代・中世宗教文化史を専攻。

近年は「天神信仰」の研究に専念している。主な著書・編著書に「日本古代仏教の文化史」「天神信仰編年史料集成―平安時代・鎌倉時代前期篇」「歴史と古典 北野天神縁起を読む」など。



国宝「北野天神縁起絵巻」（承久本）巻一より 序文

国宝本とその序文

今回から紹介する国宝本は、類本中の最古の絵巻で、巻頭序文中に「承久元年己卯（一二一九）、今に至るまで」と見えるところから、鎌倉時代初期の制作と推定され、承久本あるいは根本縁起とも称されている。

通常の絵巻では横長に接続する料紙を、国宝本は縦に接続しているため、縦約五二cmの、濃彩の迫力に富んだ大画面が展開される大作ではあるが、実は現状の八巻は縁起の基本型の途中で終わっており、別に白描の下絵が張り込まれた一巻が付属している。言わば「未完」の大作で、その謎は今なお解けていない。

さて、今回掲げた巻頭の序文の部分は「王城鎮守神々多くましませど、北野宮の利生殊に優れて」で始まり、以下、現当「二世の大願」（この世での長寿と、あの世での極楽往生）を成就せしめ、また「文道の大祖」「風月の本主」として、さらには「帝図（天子の計画）を輔導し、或は天上に日月として国土を照らし給」う霊験あらたかなることを説き、「あはれ目出たかりける権者の化現かな」で結ばれる。

「権者の化現」とは、仏菩薩が衆生救済のために仮にこの世に現われたことを言い、縁起建久本の末尾に「さても本地申せば、観世音のすいじゃく、十一面の尊容なり」（天神道真公は十一面観音の垂迹である）と記していることと照応しており、直後の「幼児化現」の詞書に続いていくのである。（つづく）

〈追記〉

なお詞書の引用は、漢字をあてたり、送り仮名等を補って読みやすくした「日本絵巻大成」の詞書釈文を用いることにした。

国宝　御本殿

天神信仰の諸相〈第一回〉

北野天満宮 権宮司 加藤 迪夫

北野天満宮は、平安時代中期を代表する文人・貴族、右大臣菅原道真公（菅公）の御神霊を、神としてお祀りした天神信仰の発祥の地、全国にある約一万二千社の天満宮・天神社の宗祀の社（総本社）です。

桓武天皇により遷都された平安の都、平安京。都には怨霊・御霊信仰が流行、とくに左大臣藤原時平の讒言により九州大宰府の地に左遷され、失意のうちに延喜三年（九〇三）二月二十五日大宰府の配所で薨去した菅原道真公の御霊は、皇族・貴族、人々に怨霊として恐れられました。

天慶五年（九四二）西ノ京に住む多治比文子に、北野の右近の馬場に祀るよう道真公の託宣が下り、さらに天慶九年近江国比良宮禰宜神良種の子太郎丸に再度託宣が下るにおよび、朝日寺僧最鎮らの協力により天暦元年（九四七）六月九日、北野の地に神殿を造立しその神霊を鎮めたのが北野社（北野天満宮）の創始と伝えられています。

束帯天神像

しかし、その後も道真公の祟りとされる事件が勃発します。天変地異・異常気象が頻発し、左大臣時平とその一族の者が相次いで死去、ついには清涼殿に落雷などの変異に、人々は菅公・雷神の祟りとうわさするようになります。

藤原家では時平の弟・忠平が、道真公と親交があったといわれており、摂政・関白を歴任、その子右大臣藤原師輔は天徳三年（九五九）九條家の繁栄を願い北野社の大規模な社殿の造営、さらに孫の藤原兼家は永延元年（九八七）「北野宝殿」を修造するなど、道真公の慰撫とともに北野社への庇護・崇敬心も篤く、ついには北野社は藤原摂関家を守護する神・摂籙神となっていきます。

永延元年（九八七）八月五日、一條天皇により始めて北野祭が朝廷の崇敬を受け勅祭として執り行われます。これは道真公を国家として公的に「天満天神」という「神」としたことを示しており、さらに正暦二年（九九一）、北野社は朝廷が特に信仰する二十二社の一社として祈年祭、また国家の大事に行われる臨時祭に奉幣に預かる重要な社となります。

一條天皇は正暦四年（九九三）六月二十五日、道真公に正一位左大臣を贈位され、八月二十日安楽寺（墓所、後の太宰府天満宮）に勅使を遣わされ、御霊を平安京を鎮める御神霊として北野に迎えます。北野祭が「官祭」とされて以来、道真公の祟りをなすことは次第に見られなくなります。

菅公薨去より百年の年月をかけ、怨霊としての菅公の霊は、やがて皇室・王城鎮護の神、天神としてその御神威が高められていきました。

平安末期以降、北野・太宰府以外に各地に菅原道真公ゆかりの天神社が創建され、鎌倉時代には、人々を守護する神へと変化、室町時代、足利幕府の庇護を受け、北野社の社領は二十四か国、八十か所に亘り、その各地に天神社が建てられていきました。

わが国八百万の神々の中でも、菅原道真公を祀る天満天神は、歴史上実在の人物として唯一、天神信仰として全国的に信仰を集めています。天神信仰の成り立ち、歴史には多くの紆余曲折があり、また時代〳〵の信仰の変遷と変容があります。天神信仰といっても単純ではなく、その諸相は色々あり、また御神徳は多様であるのが特徴といえましょう。

一、天神地祇の天神

菅原道真公の御神霊を天暦元年（九四七）六月九日、北野の地に神殿を造立しその神霊を鎮めたのが北野社（北野天満宮）の創始ですが、北野の地は平安京の乾に位置し、神を祀る聖地でもありました。

天神地祇を北野に祀り遣唐使の派遣を祈願した記録があります。

承和三年（八三六）二月朔日「為二遣唐使一祠二天神地祇於北野一」とあり、臨時祭が行われましたが、御本殿の裏北東に鎮座している地主神社がこの社と云われています。天神とは元来地祇（クニツカミ）に対する称で、アマツカミと訓み、高天原の神々、また葦原中津国に降り給うた神の系統をいいます。遣唐使の発遣に際し、天神地祇を祭祀する例は、『続日本紀』の宝亀八年（七七七）二月の条に、「遣唐使、天神地祇を春日山の下に拝す」とある例などがあります。したがって、異例ではなかったとしても、いわゆる北野天神の祭祀以前に、すでに北野の地に「天神」を祀る事例のあったことを現わしています。

地主神社

二、菅原道真公の御神霊と怨霊信仰

菅原道真公は承和十二年（八四五）学者の家に生まれました。道真公は学問文才がすぐれていたばかりでなく、宇多天皇に抜擢され有能な官僚として活動しました。道真公の登用は天皇に藤原氏の勢力を抑制したいという意図があったからだと見られており、宇多天皇の道真公への信任は特別厚いものがありました。やがて道真公は左大臣時平とならび右大臣に任ぜられますが、昌泰四年（九〇一）、時平の讒言によって九州の地に大宰権帥として左遷され、二年後の延喜三年（九〇三）二月二十五日、配所で寂しく没します。

道真公の霊がこの世をうらみ、怨霊として祟りなすのではないかという不安は、宮廷の人々をおびえさせます。天神信仰は、道真公の怨霊にはじまるといえます。道真公の死後、彼をおとし入れた藤原時平は権勢を一身に集めていましたが、延喜九年（九〇九）、三十九歳の若さで死んだのをはじめとして、京都では飢饉や旱魃などの異常気象や疫病がうち続きました。それらの災いはすべて怨霊と化した道真公の成せる業と怖れおののいた藤原氏は、それを鎮めようとして、延長元年（九二三）道真公を右大臣に復し、正二位の位を追贈しました。祟りはまだ続きます。延長八年（九三〇）は旱魃に見舞われ、六月に殿上で請雨について会議が行われていた時、急に暗雲が立ちこめ、清涼殿に雷が落ち、大納言藤原清貫らが即死しました。さらに、道真公を重用した醍醐天皇は病に伏し同じ年の九月に急死したのでした。

「北野天神縁起絵巻」（弘安本）より文子託宣

天慶五年（九四二）西ノ京に住む多治比文子に、北野の右近の馬場に祀るよう道真公の託宣が下り、さらに天慶九年近江国比良宮禰宜神良種の子太郎丸に再度託宣が下るにおよび、朝日寺僧最鎮らの協力により天暦元年（九四七）六月九日、北野の地に神殿を造立しその神霊を鎮めたのが北野社の創始と伝えられています。

怨霊として恐れられた菅原道真公の御神霊を慰撫し鎮めるために、平安京の乾の地、天神地祇が祀られ、また雷神が祀られていた北野の地が選ばれたのでした。とりわけ藤原摂関家の庇護により御社殿が建てられ、朝廷の崇敬により一條天皇が北野祭を勅祭とされ、さらに一條天皇行幸という特例の扱いにより、荒ぶる神霊、怨霊としての神霊はやがて和霊、神として昇華し、本来の道真公の徳分である、学問・知恵・至誠等が天神信仰として変貌していったのが北野信仰、天神信仰といえます。

（つづく）

北野の光

北野天満宮の
四季折々の風景や
多彩な行事の数々を紹介します。

初詣にぎわう 絵馬所にジャンボ行燈初奉掲

絵馬所に掲げられたジャンボ行燈

平成二十六年、午年の初詣は日和にも恵まれ、三が日の境内は参拝者で身動きが取れないほどの賑わいとなった。

新年最初の神事歳旦祭は、元日午前七時から本殿において宮司以下神職により厳かに斎行され、世界の平和・国家隆盛・皇室の弥栄・氏子崇敬者の弥栄を祈願した。

初詣

初詣風景

狂言

奉納狂言

新春奉納狂言

恒例の「新春奉納狂言」が一月三日午後一時より、神楽殿で行われた。

猿楽会・茂山良暢氏によるもので、「末広かり」「因幡堂」「福之神」など六番と小舞が奉納され、初詣の参拝者を楽しませた。

例年、所蔵の宝物類からその年の干支の図柄を選び、デジタル加工し、ジャンボ行燈に仕立てて社務所前に掲げているが、今年は午年を迎え豊臣秀頼公奉納の「曳馬図絵馬」（宝物殿展示）を、かつて掲げられていた絵馬所に初奉掲した。

書の上達を願って力強く「天満書」

正月恒例の神前書き初め「天満書」が一月二日から四日まで絵馬所で行われ、書の上達を願う初詣の子供たちが力強く書き初めをし、書いた作品を奉納した。

この神前で書かれた作品千八百十七点に、家庭で書き、奉納された作品千六百五十二点を合せた三千四百六十九点の作品は十七日から二十六日まで本殿前西廻廊と絵馬所に展示された。

天満書

元気いっぱいの書初め風景

書初め審査

授賞式

奉納作品の審査は、展示初日の一月十七日に日比野実氏を始め五人の書家の先生と橘重十九宮司によって入念に行われ、千六点（神前の部四百七十二点、家庭の部五百三十四点）の入選が決まった。

審査に当たられた日比野実氏は「午年ということで、一年間希望を持って頑張ろうという願いを込めて書いた作品が多かったように思う」と、感想を述べられていた。

この「天満書」の入選者授賞式は一月二十六日、本殿で、天満宮賞など特別賞入選の子供・保護者が参列して行われた。授賞式に先立つ奉告祭では、参列した子供の代表が玉串をささげ、それに合せて全員が拝礼、書道の上達を祈願した。

橘宮司が「入選おめでとう。菅原道真公は書の三聖の一人であり、学問の神様です。入選を励みに書道だけでなく勉強やスポーツに励んでください」と激励し、一人ずつ賞状と記念品を手渡した。

そろばんはじき初め

新春の恒例となっている「そろばんはじき初め」が一月五日、絵馬所で小学生ら約四百人の参加のもと行われた。

全員が昇殿参拝し、そろばんの腕の上達を祈願した後、長さ五・五㍍、四百桁もあるジャンボそろばんなどを使ってはじき初めをした。

はじき初め

真剣な眼差しで挑むそろばんはじき初め

梅苑

梅苑から楼門を望む

梅苑開苑

梅苑が二月九日から開苑した。今年の一番梅の開花は一月二十二日の早咲き種の白梅で、厳冬の影響によって過去十年間ではもっとも遅い開花日となった。しかし、その後は順調に咲き出し、開苑した梅苑や境内は梅の香が漂った。

観梅者でにぎわう梅苑

梅花祭

梅と舞妓の競演、梅花祭野点大茶湯

ポカポカ陽気の梅花祭

梅花祭の二月二十五日、京都の最高気温は十三・八度と平年を三・二度も上回る陽気となり、参拝者の列が早朝から夕刻まで途切れなく続く大賑わいの縁日となった。本殿での祭典は、冠に菜の花を挿した神職によって厳かに斎行され、「梅花の御供」「紙立」に加え、杉子女王殿下奉献の「御花神饌」の三種の特殊神饌が奉饌された。

そして今年も皇后陛下の御代拝として、宮内庁京都事務所長が参向された。

五十種・約千五百本の梅の花は、全体としては三分咲きだったが、早咲き種は満開となり、梅の香り漂う中、美しく咲いた花の写真を撮ったり、記念撮影する風景が見られた。開苑中の梅苑も大賑わいとなった。

三光門前西広場では呼びものの「梅花祭野点大茶湯」が開催され、上七軒歌舞会の芸舞妓さんのお点前によって優雅に一服を楽しむ参拝者で華やいだ。

節分祭　追儺狂言・舞踊・豆まき

茂山千五郎社中と上七軒歌舞会による豆まき

立春前日の二月三日、本殿で向こう一年間の災厄を祓う節分祭を斎行した。

天暦元年（九四七）、京都の「乾（いぬい・北西）の隅」の守り神として建立されて以来、災難よけ・厄除けの社としても篤い信仰があり、節分には「四方詣り（しほうまいり）」と称して当宮など四社寺を参拝する信仰が根づいており、終日、無病息災を祈る参拝者で賑わった。

午後からは神楽殿で茂山千五郎社中による伝統の「北野追儺狂言」が奉納された。摂社福部社の御祭神福の神が、都を荒らす鬼を退治するというお馴染の筋書き。「鬼は外！」の掛け声で豆が投げつけられると鬼はたまらず退散し、神楽殿を囲んだ参拝者から拍手喝さいがわいた。

この後は、上七軒歌舞会の芸舞妓による日本舞踊の奉納があり、最後は神楽殿の上から威勢よく豆まきが行われた。

梅の枝「おもいのまま」

初天神で約六十年ぶり、梅の枝授与

梅の枝「おもいのまま」授与風景

大萬燈祭（昭和27年）での梅の枝授与

初天神の一月二十五日、絵馬所前において招福の梅の枝「おもいのまま」の授与を約六十年ぶりに復活した。

授与開始の午前十時には五百人もの行列が出来るという予期せぬ事態となり、一時間もしないうちに準備した数がなくなった。

開花期を前に伸びた枝は剪定しているが、かねてから「御神木の梅の枝を授与してほしい」との声が崇敬者から寄せられており、千五十年の大萬燈祭（昭和二十七年）の年の初天神で参拝者に授与していたこともわかり、約六十年ぶりの授与となった。

「おもいのまま」には、菅公を偲ぶ梅花祭で神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除け玄米の入ったひょうたんを取りつけ、家庭に春の訪れと幸せを呼んでほしいとの願いを込めている。

文楽公演成功祈願

菅公に文楽公演成功を祈願「菅原伝授手習鑑」

大阪・日本橋の国立文楽劇場開場三十周年記念公演「通し狂言 菅原伝授手習鑑（すがわらでんじゅてならいかがみ）」の出演者らが二月二十七日、当宮を訪れ、本殿で公演の成功を祈願した。

参拝したのは、太夫の豊竹咲大夫（さきたゆう）さん、人形遣いの吉田玉女（たまめ）さん、三味線の鶴澤燕三（えんざ）さんらで、玉串を捧げ、一心に公演の成功を祈った。

「菅原伝授手習鑑」は、菅丞相（かんしょうじょう）（菅公）が、藤原時平の讒言によって大宰府へ左遷された物語と丞相のために働いた三つ子の兄弟の悲劇を描く名作として知られている。

全編通しての上演は十二年ぶりのこと。公演（四月五日から二十七日まで）を前に主人公である菅公の神霊を祀る全国一万二千の天神社・天満宮の宗祀（総本社）の神社である当宮への参拝となった。

成功祈願祭を終え、記念撮影（社務所にて）

梅風祭

梅風講社の隆盛祈願 梅風祭

鈴舞を奉納する八乙女

崇敬者組織である梅風講社（小石原満講社長）の祭典、梅風祭が縁日の三月二十五日午後三時半から本殿で斎行された。

梅風講社は明治初期の設立。瑞饋祭の神輿渡御のまとめ役のほか、八乙女の人選や指導、稚児行列の世話、縁日の献灯に大晦日の火縄授与など多岐にわたる奉仕活動をされている。

祭典には約五十人が参列し、白衣・緋袴姿の八乙女が優雅に鈴舞を奉納した。この後関係者が玉串をささげ、梅風講社の隆盛と講社員の無病息災を祈願した。

鈴舞を奉納した八乙女は次のみなさん。

後藤初寧・成田悠香・青山璃南・青山愛実
泉珠以・野々口寿璃・人見香帆・中島花音

天満宮の多彩な行事（四月～六月）

人々の暮らしの中に生きつづける「北野の天神さん」の神事をご案内

卯月 四月

還幸祭渡御

文子天満宮祭

「文子さん」「文子祭」と呼ばれて親しまれている末社文子天満宮の例祭。
4月17日から20日まで4日間にわたり斎行する。

明　祭

御祭神菅原道真公の冤罪が晴れた日に当たる4月20日、その喜びを神前に奉告する祭典。

明祭での祝詞奏上

水無月 六月

梅の実採取

正月の縁起物「大福梅」となる梅の実の摘み取りを6月中旬から約一週間がかりで行う。

職員総出で行う梅の実採り

宮渡祭　列立する神職

宮渡祭

御祭神・菅原道真公が北野の地に鎮座された日に当たる6月9日に祭典を斎行する。

摂社火之御子社

火之御子社例祭

「雷除大祭」とも呼ばれて親しまれる摂社火之御子社例祭。6月1日早暁午前4時から斎行。

青柏祭

柏の葉に御飯を包み、くるみと共に神前に供え季節の変わり目の神事として無病息災を祈願する。

青柏祭　特殊神饌

皐月 五月

祭事暦（4月1日～6月30日）

［4月］

4月 1日 午前10時　月首祭
3日 午前 9 時半　神武天皇陵遥拝式
午前10時　古絵馬焼納式
13日 午前10時　賣茶本流献茶式
煎茶賣茶本流家元 渡邊琢宗宗匠奉仕
15日 午前10時　月次祭
16日 午前10時　摂社 地主社例祭
17日 午後 2 時　末社 文子天満宮神幸祭
20日 午前10時　明祭（中祭式）
20日 午後 4 時　末社 文子天満宮還幸祭
25日 午前 9 時　月次祭
午後 4 時　夕神饌
29日 午前10時　昭和祭

［5月］

5月 1日 午前10時　月首祭
5日 午前10時　児童成育祈願祭
14日 午前11時　献酒祭
15日 午前10時　月次祭
25日 午前 9 時　月次祭
午後 4 時　夕神饌

［6月］

6月 1日 午前 4 時　摂社 火之御子社例祭（雷除大祭）
午前 9 時　月首祭
8日 午前10時　二條流献茶式
煎茶道二條流家元 二條雅荘宗匠奉仕
9日 午前10時　宮渡祭（中祭式）
10日 午前10時　青柏祭
15日 午前10時　月次祭
17日 午前10時　末社　竈社例祭
25日 午前 9 時　御誕辰祭（中祭式）
午後 4 時　御誕辰祭夕神饌
30日 午後 4 時　夏越の大祓

月釜献茶（4月1日～6月30日）

［4月］

4月 1日	献茶祭保存会	藤谷 宗美	（明月舎）
13日	梅交会	横田 宗重	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	速水滌源居	（明月舎）
	松向軒保存会	村上 宗美	（松向軒）
27日	紫芳会	植中 宗佳	（松向軒）

［5月］

5月 1日	献茶祭保存会	鈴木 宗博	（明月舎）
11日	梅交会	岡本美知子	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	堀内社中	（明月舎）
	松向軒保存会	西川 宗青	（松向軒）
25日	紫芳会	紫芳会	（松向軒）

［6月］

6月 1日	献茶祭保存会	徳田 宗忠	（明月舎）
8日	梅交会	田中 宗恵	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	徳永 宗住	（明月舎）
	松向軒保存会	長岡香料茶道部	（松向軒）
22日	紫芳会	布施 宗青	（松向軒）

合格祈願を受ける修学旅行生たち

修学旅行参拝

中学生を中心とする修学旅行中の昇殿参拝。5月上旬から下旬にかけて一番のピークを迎える。

神前に供えられたご神酒

献酒祭

5月14日、酒造組合や酒造会社の代表らが参列し、神前に新酒を供え、よい酒ができたことに感謝するとともに酒造りの安全と業界の繁栄、関係者の息災を祈願する祭典。

御誕辰祭・大茅の輪くぐり

6月25日は御祭神菅原道真公の誕生日に当たり御誕辰祭を斎行。

楼門では恒例の「大茅の輪くぐり」を行う。

京都最大の大茅の輪

夏越の大祓

夏越の大祓を6月30日午後4時から本殿前中庭にて斎行する。

無病息災を願う夏越の大祓

平成三十九年
半萬燈祭

「北野天満宮境内整備事業 平成の大改修」

平成の大改修へ奉告祭斎行

平成三十九年に迎える千百二十五年半萬燈祭に向け、境内を大改修することになり、三月二十八日午後三時半から本殿で神社役員ら参列のもと、境内地改修始奉告祭を厳かに斎行した。

平成の大改修は、千百二十五年祭に向け天神信仰の昂揚を図るのはもとより、天神信仰発祥の地・全国天満宮宗祀の社であることを改めて全国に強く発信。また、海外に向けても文道の大祖・風月の本主と崇められ、和魂漢才の精神を持たれていた偉大な学者・文化人・政治家であった菅公のことを知ってもらう好機ととらえて行う。

改修のもっとも大きなものは、老朽著しく、耐震性にも問題が出ていた木造社務所の建て替えがある。

これについては、梅苑北側に社務所機能を備え、多目的に使うことが可能な「天満宮会館」（仮称）を建設する計画を進めている。

また、紅梅殿を現在地より南へ移動して境内西側を全面改修。かつて王朝文化の花が開いた平安朝の庭を彷彿させるたたずまいを目指している。

ボーイスカウト〈京都第八十五団〉

◎伊勢の神宮参拝

カブ隊とボーイ隊合同による、伊勢の神宮参拝が二月十六日に行われた。前日まで日本列島は各地で大雪に見舞われたが、当日は天候にも恵まれ、外宮そして内宮と行程通り無事に参拝を終えた。

特に今年の参宮は、昨年十月に執り行われた第六十二回神宮式年遷宮により真新しくなった御正宮に参拝し、スカウトをはじめ参加者一同は感激のうちに伊勢の地を後にした。

神若会〈北野天神太鼓会〉

◎初天神で和太鼓奉納

初天神の一月二十五日、当宮崇敬団体である神若会北野天神太鼓会が、午後六時より神楽殿にて縁日恒例の和太鼓奉納を行った。

今年初奉納ということもあり、境内には演奏を楽しみにする参詣者が大勢集まり、「座論梅」「三宅」「一心」など六曲の演奏を楽しんだ。

献木奉納

井上さん夫妻「娘の結婚を祝福」

京都市上京区の井上良一さん・由紀美さん夫妻が献木（南高梅）され、三月四日午前十時から本殿で奉告祭を斎行、梅苑に植樹した。

娘の綾子さんが、三月十六日に野澤幸治さん（千葉県印西市）と当宮で挙式されるための記念の献木。井上さん夫妻は「娘は宮参りも七五三も天満宮でしており、娘の結婚を祝福するとともに、風雪に耐えて咲く梅のように幸せな家庭を築いてほしい」と話されていた。

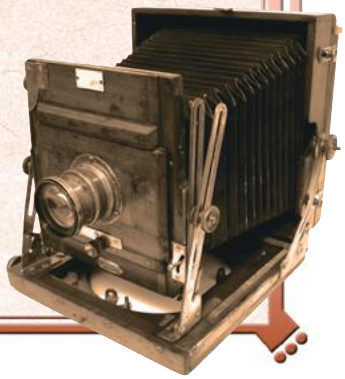
山本さん夫妻「結婚を記念して」

豊中市の山本浩靖さん・瑞穂さん夫妻が、結婚記念にと献木（紅しだれ）され、三月九日午前十時から本殿で奉告祭を斎行、梅苑に植樹した。

山本さん夫妻は、昨年十月十三日当宮で挙式された。「大変よい雰囲気の中、挙式出来て満足でした。結婚記念にぜひ献木したかった」と、話されていた。

奉告祭・植樹には、山本さん夫妻のご両親も列席された。

天神さん 思い出写真館

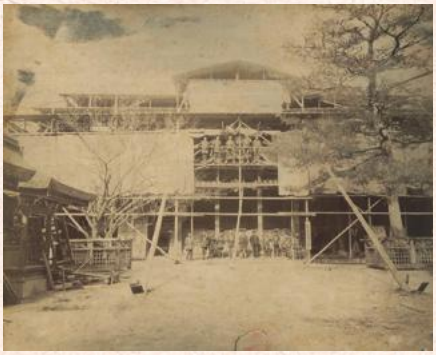


明治三十五年に斎行された一千年大萬燈祭に関連する写真二枚である。

上の写真は、一千年祭の記念事業として行われた本殿の屋根の葺き替え工事の際の一枚で、従事した技師・作業員らの記念写真らしい。本殿のほぼ全体がムシロのようなもので覆われ、写っている人たちの出立ちにも百十数年の時の流れを感じさせる。

下の写真は、修理を終えた本殿前での記念写真で、「正遷宮御本殿前　奉仕諸員」と書かれ、明治三十五年三月九日の日付けがある。

当時の記録をひもとくと「三月八日夜、正遷宮式滞リナク終了セシヲ以テ翌九日御本殿ニ於テ奉祝祭ヲ挙行セリ」とあり、この写真は奉祝祭前に撮影された一枚なのかもしれない。



◇

毎月発行の天満宮報で連載していた「天神さん　昔の風景」を「天神さん　思い出写真館」と名を変え、引き続き当宮所蔵の貴重な写真を紹介します。

天神さんの細道

牛祠―一願成就

ひとつのお願い事が必ず叶えられる一願成就所

北野天満宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く神の鎮座するところと呼ばれています。

また平安京の大極殿北西に位置し、三光門の真上に北極星が耀き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

牛祠はその天満宮の乾にあり、古くからひとつのお願い事が必ず叶う一願成就所の信仰があります。全国天満宮の総本社、天満宮の牛社に祈願絵馬を奉納、入試合格・学業成就・技芸上達・心願成就……を祈願しましょう。きっと願いは叶うはずです。

絵馬掛所

修学旅行生向け 冊子を作製、全国の小中高へ送る

修学旅行に役立てもらおうと、当宮の様々なことを紹介した案内冊子を作製、ここ数年間に参拝された全国の小・中・高校へ送った。

従来から当宮を紹介するしおりなどを学校へ送っていたが、もっと色々なことを知りたいという要望が強く、この冊子の発行となった。

冊子は、B5判、二十ページ。写真やイラストを数多く入れ、天神信仰発祥の地である当宮の由来から始まり、昇殿参拝のこと・年間行事や展示物の紹介・天満宮七不思議・授与品紹介、見開き境内地図などなど幅広い内容となっている。

参拝のあった学校へのみ送付したが、他にも希望する学校があれば社務所へ連絡を。

◎電話　〇七五―四六一―〇〇〇五

連歌奉納

菅公は「連歌の守護神」として崇敬され、北野天満宮では、鎌倉初期から御神前で「法楽」と称する連歌の会が開催されています。
室町時代には、北野連歌会所が設けられて、名立たる連歌の名人・宗祇が会所奉行を勤め、千句興行や万句興行も営まれ、天皇や将軍も一句を詠じています。

平成二十六年三月二十一日　於・北野天満宮
北野天満宮奉納 梅ヶ枝連歌　世吉
賦白何連歌
京都連歌の会　宗匠／光田 和伸
執筆／松本 節子

初折 表
香に満ちてここよりおほへ北の梅　和伸
水の水上つたふ鶯　武彦
舟浮かぶ里遠くまで霞むらん　景子
雲も静けく平らかの旅　敦子
をちこちの眺め楽しむ道の友　孝子
足引きの峰夕べ露けし　まり絵
一日終へ西の彼方に三日の月　裕雄
千草にすだく虫のこゑごゑ　稔
初折 裏
にはたづみいづこともなく鳥たちて　一希
柚入る跡をふみのかよひ路　誠三
墨かほる杉原紙の細き文字　満千子
あふもあはぬも恨みのみ積む　光代
ほたる火のただたまゆらの命ゆゑ　千世子
鎮守の森をめぐる夏の夜　幸子
潮騒にまじる囃に誘はれ　夕紀子
響く鉦の音童つれ跳ぶ　和行
兄妹そろひの衣に秋の風　節子
そぞろ歩めば山の端の月　秀慈
世を去りて終の栖に雁の声　裕雄
いにしへ語る人もなければ　光代
今を咲く花のみちぎりたがへじよ　敦子
春は過ぐともなほひたもゆる　稔
名残折 表
糸遊の振れてこぼるる君の笑み　夕紀子
みゆとはみえずおもかげばかり　まり絵
おとづるは遠き都の風かとも　景子
行く川の水いよよ清けく　和行
笛の音にいやます酒の酔心地　幸子
戯れにして歌ほがひなど　秀慈
囲ひして山里は早や冬構へ　孝子
きさいの髪に霜おきまよふ　満千子
関屋にて乳呑み子いだく吹雪く中　武彦
若き法師は道をひたゆく　節子
響のや灘をいづこへのりのふね　和伸
野分けの荒磯牛は動かず　裕雄
平らかに月の鏡を望みたし　光代
栗の実ひろふ松の山かげ　満千子
名残折 裏
しらじらと粥炊く煙草の庵　稔
わらぢを脱ぎて宿にとく旅　秀慈
風と来て風と去りゆく夕まぐれ　和行
巣籠りの虫ときを待ちぬる　武彦
おひろめの宴の衣に香をこめて　幸子
さしいるかげののどけくもあり　敦子
咲きををる花へ淡海の波たひら　まり絵
鈴の音うらら春雨の中　節子

句上　和伸二句　裕雄三句　千世子一句
武彦三句　稔三句　幸子三句
景子二句　一希一句　夕紀子二句
敦子二句　誠三一句　和行二句
孝子二句　満千子二句　節子二句
まり絵三句　光代二句　秀慈二句

献詠

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

三月「弥生」

濱崎加奈子選

あまねくも弥生の陽ざしぬくもりて　福井県　武曽　豊美
　春の幸せわが気色にも
銭湯のタイル絵の中水車小屋　大阪府　村島　麗門
　弥生の水にくるくる回る
弥生入り春の日差しにコウナゴの　愛知県　鈴木　幸子
　天日干しつづく篠島浜路
輝やきを見せくれつつも偉容を　京都市　今井　輝子
　ばみねみねのばし押しせまりくる
芋植の時季を知らせて辛夷咲く　岐阜県　波多野千寿子
　弥生の野山芽吹き初めたり
三年の歳月重しみちのくの　京都市　若狭　静一
　弥生の海にとむらひの歌
弥生席床の花入花はなし　愛知県　仁枝　尚子
　客に微笑む落ち椿愛づ
匂ひ立つ花は盛りを過ぎゆきて　京都市　工藤　大介
　緑いやおひ草ぞ薫れる
花誘ひ柳芽分けて吹く　京都市　石山　裕菜
　風の薫りなつかし弥生つごもり
弥生なる空に鳧鳥鳴き渡り　長岡京市　智野利恵子
　沈丁花薫る春は来にけり
やよ弥生花待つひとの気は　京都市　朝比奈栄子
　満ちて月も朧ろに包みけるかな
雪解けの流るる小川水清く　東京都　白石　雅彦
　萌える木々の芽弥生来にけり
雪果てて鴨の堤はいやおひの　京都市　田口　稔恵
　柳の糸にまがふ春雨
春を呼ぶ弥生三日のひなまつり　京都市　石原　皐月
　おみなの幸を祈る日の本

【評】一年の巡りを実感する季節。芽吹くいのちのなかで、人もまた新しい門出を迎える。

●献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

挙式された皆様（一月一日～三月三十一日）

新郎新婦様、御両家の皆様の末永いご多幸をご祈念申し上げます。

二月十四日　野村 剛史・有樹子 ご夫妻
三月一日　西岡 正樹・千春 ご夫妻
三月八日　宮浦 洋輔・友香 ご夫妻
三月八日　櫻井 健一郎・彩 ご夫妻
三月十六日　野澤 幸治・綾子 ご夫妻
三月十六日　小野 孝二・茉悠佳 ご夫妻
三月二十二日　ジロー・ヴァンサン・亞矢 ご夫妻
三月二十二日　矢澤 廣範・温子 ご夫妻
三月二十三日　藤田 裕二・佳菜子 ご夫妻
三月二十八日　瀬尾 泰信・由希子 ご夫妻
三月二十九日　池村 亮祐・洋子 ご夫妻
三月三十日　阪下 優・恵美 ご夫妻
三月三十日　釜下 昌樹・明依子 ご夫妻

正式参拝された皆様（敬称略）（一月一日～三月三十一日）

一月四日（土）　西之京瑞饋神輿保存会
京都市農業協同組合朱雀野支部
一月六日（月）　要建設株式会社
京都奉製株式会社
株式会社シーズン
株式会社中川工業所
一月七日（火）　朱雀第二学区老人クラブ連合会
一月七日（火）　学校法人京都学園
一月九日（木）　京都中央信用金庫
一月十五日（水）　関西医科大学
一月十八日（土）　鉄鋼関連各社派遣産業技術短期大学
受験生一同
一月二十日（月）　愛知県神社庁豊川支部
一月二十三日（木）　愛知県神社庁豊川支部
一月二十四日（金）　名古屋工業大学建築デザイン工学科
歴史探訪の会
一月二十六日（日）　鞍岡神社大夫講
一月二十七日（月）　野上八幡宮
一月二十九日（水）　愛知県神社庁豊川支部
愛知県神社庁尾北支部
一月三十日（木）　石屋神社
愛知県神社庁豊川支部
京都検定現地講習会一同
二月五日（水）　株式会社金原商事
二月六日（木）　NHK文化センター京都教室
二月七日（金）　岩津天満宮 宮司 服部憲明
二月十一日（火）　関西医科大学耳鼻咽喉科
上七軒天神講
二月十七日（月）　NHK文化センター梅田教室
二月二十三日（日）　大人の休日倶楽部
二月二十五日（火）　白山神社
二月二十七日（木）　国立文楽劇場開場三十周年記念公演
「菅原伝授手習鑑」一同
二月二十八日（金）　京都医健専門学校柔道整復科
三月一日（土）　特選そうだ京都、行こうスペシャルツアー
「梅かおる春の訪れ」一行
三月六日（木）　出雲大社ライオンズクラブ
京都洛中ライオンズクラブ
三月七日（金）　十文字天満神社
三月十五日（土）　忠節天神神社
三月十八日（火）　十八日会
三月二十三日（日）　神若会北野天神太鼓会
三月三十日（日）　株式会社芦田呉服

北野天満宮講社 入講のご案内

本講社は心から「天神さま」を慕い、大切に考えていただく崇敬者の集いです。
神を敬い人を愛する優しい心から「天神さま」を大切に想い、本講社の諸活動にご賛同いただける方はどなたでも入講できます。
本講社は年会費による登録会員制となっておりますので、入講の方には毎年継続のご案内を差し上げます。

〈主な活動事業〉
・「講社大祭」斎行
・国宝本殿を始めとする文化財並びに境内風致の維持管理
・境内施設の整備拡充

〈会員の特典〉
・毎朝ご神前にて会員の皆様の家内安全・学業成就・諸願成就を特別に祈祷いたします。
・講社大祭のご案内を差し上げます。
【祭典執行】
平成二十六年七月六日（日）午後一時三十分より
・記念品を贈呈いたします。

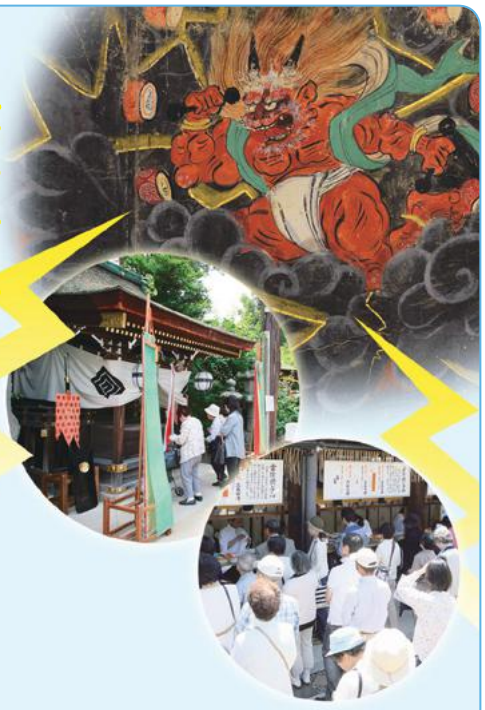
〈会員種別と会費（年額）〉
特別名誉会員　三万円以上
名誉会員　一万円以上
有効会員　五千円以上
正会員　三千円以上
普通会員　千円以上

入講を希望される方は、北野天満宮社務所までご連絡ください。（電話 〇七五－四六一－〇〇〇五）

天満宮
［第二号］
平成二十六年四月十五日　編集・発行／北野天満宮　編集責任者／神原　孝至　〒六〇二―八三八六　京都市上京区馬喰町　電話〇七五―四六一―〇〇〇五（代表）　http://kitanotenmangu.or.jp/

火之御子社例祭 六月一日 雷除大祭

かみなりよけたいさい



特別授与品

雷除袋守六〇〇円

雷除守三五〇円

雷除札三五〇円

●「北野の雷公（らいこう）」と称えられる火雷神

雷電・火難・五穀の守護神として、農業・林業関係者をはじめ、近年では電気関係（電力会社等）、ゴルファーや釣り人の間でも信仰が広がっています。

●特別授与品

雷除けのお守・お札を午前五時の開門より特別に授与します。

このお札は、「北野千体札」と称され、古くは千体限定でしたが、近年はこの日より三日間授与します。

●演芸披露

絵馬所では、午前十時より午後三時まで京都産業大学落語研究会による落語・漫才等の演芸が催されます。

なごしのおおはらえ 夏越の大祓

日時／六月三十日 午後四時斎行

＊どなたでも神事に参加できます。

●茅の輪をくぐり、無病息災を祈願！

午後四時から神事を執り行い、神職とともに茅の輪くぐりを行います。

茅の輪をくぐって、厄難を祓い落しましょう！

●人形・車形でお祓いしましょう！

人形に氏名・年齢を記して三度息を吹きかけます。

それを身代わりとして大祓に差し出してお祓いします。

また交通安全祈願として、車形もあわせて行いましょう。

※氏子区域の皆様には、氏子総代を通じて形代をお配りします。

車形代

人形代

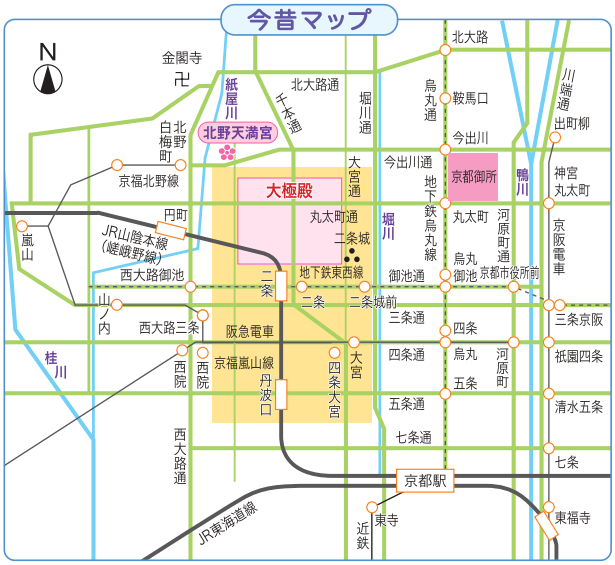
御縁日 境内ライトアップ

毎月25日は天神さんの御縁日。
夜9時まで境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）
  季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿（遷都より600年の間）は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

平安京（大内裏）
大極殿（昔の御所）
京都御所（現在の御所）